

これだけは知っておきたい糖尿病患者の手の病気

慶應義塾大学医学部整形外科 仲尾 保志

糖尿病で通院している患者さんの手を、じっと観察してみたことがありますか？実は糖尿病は、神経や血管、関節や腱など、手の中の複雑な構造にさまざまな影響を与え、手指の動きに障害を起こすことが多いです。最近、日本人の生活も欧米化が進み、糖尿病の患者人口は増加の一途にあります。それに伴い、「手指がうまく動かない」といって、整形外科に訪れる人が、とても増えています。

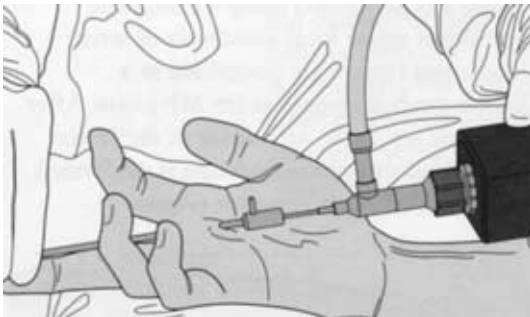
私たちの手の指は、腕の筋肉についた腱という細いひもが指の骨を引っばることで動いています。この腱は、手のひらや指で「腱鞘（けんしょう）」というトンネルの中を通過するのですが、糖尿病になると、この腱鞘が肥厚したり腱の周囲に滑膜がくっついて太くなり、腱がスムーズに動けなくなるのです。この病態は、「腱鞘炎」とよばれ、一般の患者さんにも多くみられるのですが、通常はステロイドの注射や手術で治療がなされます。

ところが、糖尿病の患者さんの場合、症状が重症で関節の拘縮も伴うことが多く、さらに皮膚のなおりが悪い（傷がふさがりにくい）ことから手術も安易にできないという問題を抱えていました。また指1本ではなく、3本とか4本とか多数の指に同時発生することも大きな問題となっています。そのため、多くの糖尿病患者さんが、曲がらない指（それも曲げようとすると激痛を伴う）で、日常生活をすごさなければならなかったのです。

ところが最近、内視鏡手術が急速に進歩し、整形外科の「手の外科」という専門分野では、これら患者さん

に対して、皮膚をほとんど切ることなく手術ができるようになったのです。左の図のように、手のひらにわずか2mmの小さな穴を2ヵ所にあけ、手の中に直径数ミリの内視鏡を挿入し、テレビモニターを見ながら狭くなった腱鞘を広げる手術します。手術時間はわずか5分で、術後に傷を縫う必要もなく、手術の痛みもありません。患者さんは、4～5日もすれば水仕事も自由にできるようになり、痛みのない、よく曲がる指に回復するのです。

この手術は筆者が東京都済生会中央病院に勤務中に、多く糖尿病患者さんの治療に悪戦苦闘する中で開発したのですが、1999年に米国で商品化され、今では世界中で広く行われるようになりました。あなたのそばに、手の動きが悪くなった患者さんがいたら、「手の外科医」をたずねるように声をかけてあげたいかがですか？手の障害が重度になってからでは治療もたいへん。早期発見、早期治療が一番なのです。



内視鏡による腱鞘炎の手術 / 2ミリの切開から、内視鏡カメラと刃幅1ミリの特殊なメスを挿入して手術する。従来は、4本の指の治療に、手のひらを約10センチ切開する必要があった。